

第47回災害対策本部員会議での知事の主な発言

1. 会議冒頭の発言

- 外浦の沿岸部を通る県道輪島浦上線については、大規模な斜面崩落などにより、発災以来、通行止めとなっていた。沿線にお住まいの皆様が1日も早く集落に戻れるよう、復旧作業を急いでいる。

このうち、輪島市の上大沢町から赤崎町間については、来週4月26日(金)から、緊急車両や地域の方々のみ通行できる見込みとなった。

これまでは、険しい林道などを迂回路として活用いただいていたが、今回の開通により、地域の方々はもとより、工事車両の円滑な往来も可能となり、輪島浦上線の早期復旧や沿線地域の復興に弾みがつくと考えている。

引き続き、幹線道路から生活道路まで、早期復旧に全力で取り組む。

- 農業については、この春からの営農再開に向け、国・市町、JAの皆さんとも連携し、苗の調達や農地、用水路の応急復旧等に全力で取り組んでいる。

この結果、奥能登2市2町におけるこの春の作付け見込みは、米については用水路等の今月中の復旧見込みも考えると、昨年の6割となる約1,600ha、春に作付けする野菜については、昨年の5割となる約35haとなる見込みである。

引き続き、用水路等の復旧をはじめ、JAの皆さん等と

連携した営農相談、能登農林水産ボランティアなど、農家の皆さんに寄り添い、更なる作付けの拡大を図りたい。

- 4月2日（火）のこの会議で、大森能登町長から、金沢医科大学病院や県立中央病院への日帰りでの通院手段の確保について要望があった。

県からも北陸鉄道に要望したところ、今般、珠洲市から能登町経由で穴水町までを結ぶ路線バスを1往復運行し、のと里山空港で、輪島と金沢を結ぶ特急バスと乗り換えるかたちで、それぞれの病院への日帰り通院を可能としていただけることとなった。

来週4月22日（月）から運行開始します。ぜひご利用いただきたい。運転手不足で大変な状況の中、ご尽力をいただいた北陸鉄道に感謝申し上げます。

2. 会議最後の発言

- 先週の土日についても、これからの能登をどうしていくのかについて、地域の皆さんの生の声をお聞きする「のと未来トーク」を能登町、穴水町で開催した。

能登町では13日（土）、能登高校で参加者71人、14日（日）は、穴水中学で参加者30人であった。

今週末も、土曜は七尾市、日曜はオンラインで開催することとしており、引き続き、被災者の声をしっかりと汲み取って、6月議会前までのプラン取りまとめに向けて作業を進めてほしい。

- ゴールデンウィーク期間中のボランティアの受入拡大

に向け、さらなるニーズの掘り起こしや、ボランティア活動の利便性向上、熱中症対策など、取り組みを強化してほしい。

- 明日、改めて、岸田総理に直接お会いし、これまでの多大な人的・財政的支援に対する御礼と、現在の状況を踏まえた要望を行う予定である。
- 明後日4月18日（木）の15時から、ボランティアの受け入れなどについて、県民記者会見を開催し、そこで詳しく報告する。
- 例年この時期の学力テストについては、できる市町はそれで良いが、できない市町もあると思われるので、事前に状況を把握して適切に対応し、公表についても丁寧に対応して欲しい。